Management Club Report

May 2007/Vol.53

Monthly Opinion ≪プロフェッショナル・リーダーシップ≫

今月は、歯科医師と社会との関わりの中で、プロフェッショナルとしての責任を惜しまずに果たすことの重要性と、責任の果たしがいのある社会を個人の力でいかにして作っていくか、という根本的な職業観について書いて見ました。

メインテーマに入る前に、前月の続篇として、組織内での院長のリーダーシップについて、ジョージ・クレンプ・JR 博士の講演内容を歯科医院向けにアレンジしたものを伝えておきたいと思います。組織におけるリーダーシップも歯科医師としての責任に深く関わっています。

1 クレンプ博士講演続篇「効果的なリーダーの特性」

院長のＣＥＯとしての役割

クレンプ博士は企業におけるＣＥＯ（Chief Executive Officer）の役割が時代とともに変化してきていることを語っています。かつては、**社員を『統制する』社員に『指示を出す』社員に『成功することを要求する』**といった役割でしたが、現在は**組織を『刺激する』自ら『挑戦する』社員に『リスクを奨励する』**というように変化しているということです。

院長は、医院の最高経営責任者、言ってみれば医院のＣＥＯであるわけですから、企業経営者と同じように、**『リスク』を恐れず、自ら新しいことに『挑戦』し、スタッフに『刺激』を与えて行くこと**を常に考えていなくてはなりません。

困難だが魅力的な課題への挑戦

私たちは患者の立場に立って「まっとうな自由診療経営」を行なってほしいと訴え続けています。「自費率 50%を目指す」という目標設定もあると思いますが、それは混合診療が解禁されればという前提での理想的な目標数値であり、現行制度下ではあくまでも中間目標でしかないと思います。行き着く先は完全自由診療経営にならざるを得ないのではないでしょうか。何故なら**患者中心に考えれば考えるほど中途半端な治療はできなくなる**でしょうし、コンプライアンスが叫ばれる現代において**違法行為は自らの首を絞める**ことになるからです。

そうなると、これからは完全自費化を進めようという歯科医院も出てくるでしょう。そのような場合はまさに現代のＣＥＯとしての役割を果たせる院長が